

平成27年度
第13回 **全国環境連全国大会**

「未来環境への責任 ～人と浄化槽が出来ること～」

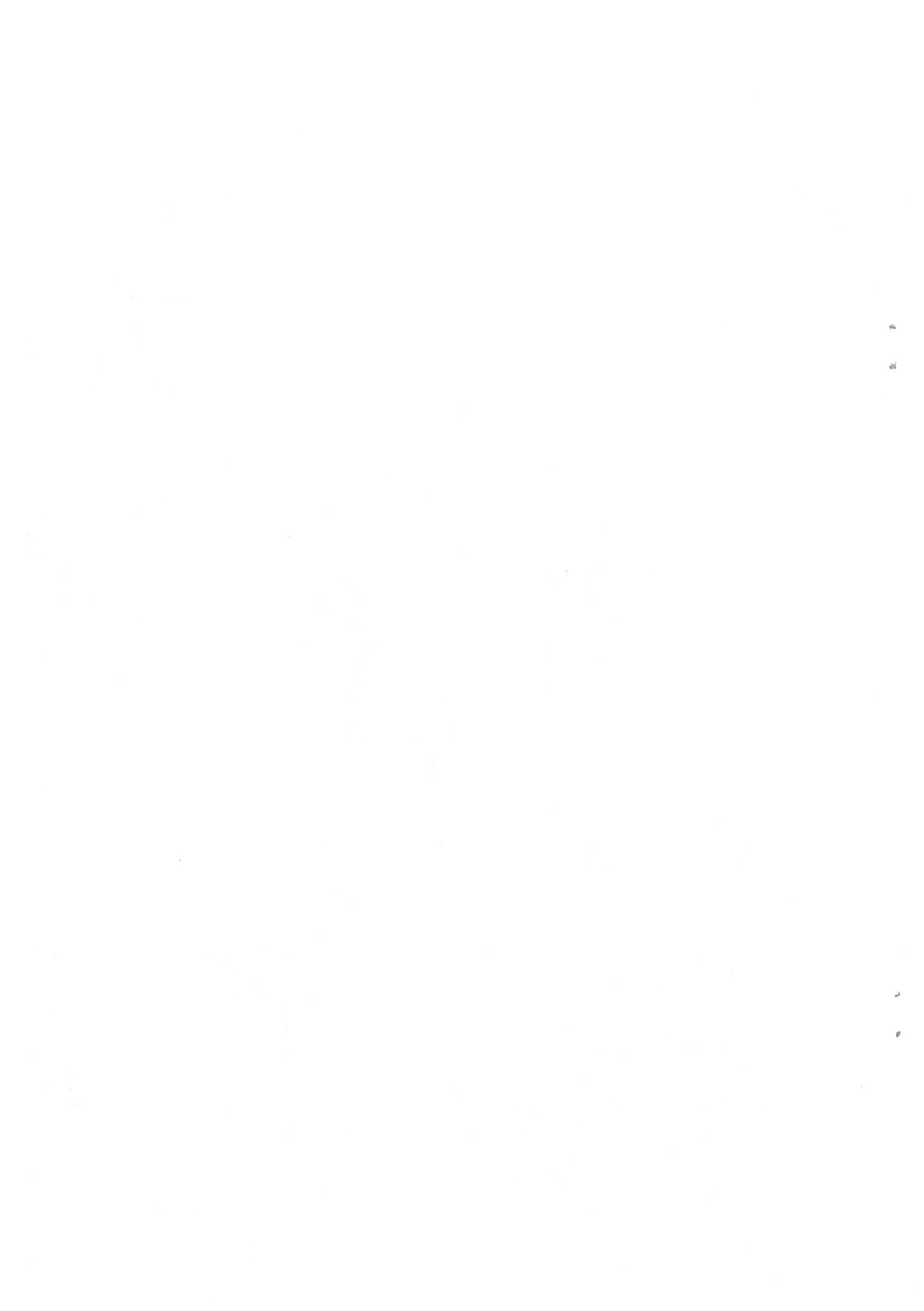
2015. **10.30** (Fri)

レンブラントホテル大分

大分県大分市田室町9-20

TEL 097-545-1040

- 主催 全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会
- 後援 環境省・大分県・大分市・大分県市長会・大分県町村会
- 協賛 公益財団法人 日本環境整備教育センター
一般社団法人 全国浄化槽団体連合会
全国浄化槽推進市町村協議会
大分県浄化槽普及促進協議会
公益財団法人 大分県環境管理協会
- 担当 全国環境連九州地区協議会(大分県環境整備事業協同組合)



第13回全国環境連全国大会の開催にあたって

本日、ここに第13回全国環境連全国大会を、『日本一のおんせん県おおいた』にて開催できますことを感謝申し上げますとともに、環境省をはじめ、国会議員の先生方、また大分県、大分市ならびに県内各市町村より行政、議会、業界団体、業界関係者など多数の皆様のご臨席を賜り盛大に開催できますことに、心より厚く御礼申し上げます。

また、日頃より全国環境連の活動には、多大なご支援、ご指導をいただき重ねて御礼申し上げます。

本大会は、「未来環境への責任～人と浄化槽が出来ること～」のテーマのもと迎えることとなりました。

環境問題の基本は、グローバルに考え、ローカルに行動するといわれますが、自然界に生きる生命あるものの一種族にすぎない人類にとり、環境は人間の生存の基盤として、限りあるものであり、社会経済活動による環境の負荷をできる限り低減し、健全で恵み豊かな環境を維持しつつ、環境への負荷の少ない健全な経済の発展を図りながら、望ましいライフスタイルたる「持続可能な社会」の構築に参加していくことは、すべての者に公平な役割分担のもと期待されているものであります。

その一環として水環境に関わる我々の業界にとり、現在及び将来にわたり自然生態系と共生する持続的な水管理の実現に向け、健全な水循環の維持又は回復のための取組みは、今後ますます積極的に推進されていかねばなりません。本格的な人口減少社会に突入り、地方消滅、消滅可能都市が語られるなか、時代の要請に対応しつつ従来の枠組みにとらわれない公共対策を推進することが求められており、災害に強く、経済性に優れ、下水道と同様の性能を有する浄化槽の普及促進を推進し、健全な水循環を流域単位で達成すべく決意を新たにしているところであります。

また、廃棄物処理・汚水処理に深く携わる我々の業界がおかれている現状は、低迷する地方の社会経済情勢に加え、いまだ継続する過剰な下水道整備事業の進捗による業務縮小に迫られ、今後ますます厳しい経営環境にさらされていくものと思われ。そのため我々は合特法の趣旨を踏まえた業務転換に備え、適正業務の安定継続に尽力し、経営基盤の強化や技術知識の習得、後継人材の育成に努め、地域社会の環境保全に寄与してまいります。

今後とも自治事務の代行者として、その信頼性・安定性が継続的に確保されるべく、幾多の試練を克服してきた経験を糧とし、生活環境の保全及び公衆衛生の向上に邁進・貢献していく所存です。

最後に本大会の開催にあたりご尽力頂きました皆様への感謝を申し上げますとともに、ご臨席を賜りました皆様方への心からの御礼と更なるご支援、ご指導をお願い申し上げご挨拶と致します。

全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会

会長 鳥越澄夫

大分県環境整備事業協同組合

理事長 山佐瞭二

祝 辞



環境整備議員連盟会長

衆議院議員 河村 建夫

「未来環境への責任～人と浄化槽が出来ること～」をテーマに全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会の第13回全国大会が、九州は大分県大分市で盛大に開催されますことに深甚なる敬意を表し、心よりお慶び申し上げます。

私の郷里・長州の藩祖・毛利元就公の「3本の矢」になぞらえたアベノミクス(経済再生策)を掲げ、デフレ脱却を目指す安倍政権は、先の自民党総裁選で安倍首相が3選されたことからほぼ長期政権が約束されたといえます。わが日本と国民の、現実に対応した真の意味での安心・安全を確保する安全保障関連法案審議の過程では国民の皆様からご理解をいただくのにいささか手間取り、支持率低下に見舞われることもありました。足下をしっかりと踏み固め、未来を志向する安倍政権は内政、外交のあらゆる分野で必ずや所期の成果を達成するものと確信致しております。

私は第2次安倍内閣以来、自民党地方創生実行統合本部長を拝命し、東京一極集中を是正し、全国各地の新たな繁栄を実現するべく日本全土を駆け巡っております。そこで水循環による自然との共生社会づくりが何れともあれ欠かせないことを改めて実感致します。それは資源の消費を減らす(リデュース)、何度も繰り返し使う(リユース)、使えなくなったら原材料として再利用する(リサイクル)循環型社会を構築する原型でもあります。

浄化槽の出番です。一昨年度末の浄化槽の普及人口は千二百二十一万人で、総人口に対する割合は8.88%でした。汚水処理施設全体の普及率88.9%の10分の1にしか過ぎず、有機性排水処理機能の目覚ましい技術的進歩からするといささかの寂しさは禁じ得ません。それに浄化槽は汚水を直接浄化するにとどまらず、その処理水が小水路を通り、河川などの水域に流れ込む間に、自然浄化作用を効率的に利用し、いわば二重の浄化作用を持つことも忘れてはならぬ利点です。絵に画いたように、水循環による自然との共生に役立つのです。

今大会のテーマに沿っていくつか浄化槽の特色を挙げれば、まず水の汚染度を表す指標である生物化学的酸素要求量の除去率が90%以上であり、設置費用は5人槽で84万円程度と安く、設置期間も1週間から10日程度と極めて短期間ですみます。安倍政権の地方創生策を担う立場の私としてはいささか我田引水的評価となりますが、地形の影響を受けることなくどのような所でも設置できるので、家屋が散在する地域での生活排水対策には欠かせぬ有効な手段なのです。地方創生の原点です。

ただ、何よりも大切なのはより良い未来環境構築に向けて英知を結集し、粉骨砕身する人、ひとひとの力であり、それを支える人の輪を広げることです。私共為政者は一般廃棄物処理業に携わる人々が困窮しないよう配慮する「合特法」を時代の要請に応じてよりよく改正し、鳥越澄夫会長をはじめとする全国環境連に集う皆様と手を携えて国民すべてが水環境の恵沢に浴せるよう頑張り抜く所存です。

祝 辞



環境省大臣官房

廃棄物・リサイクル対策部長 鎌形浩史

本日、ここに全国環境連第13回全国大会がかくも盛大に開催されますことを、心よりお慶び申し上げます。

全国環境連の皆様方におかれましては、日々、一般廃棄物の適正処理や浄化槽の清掃など、生活環境の保全、公衆衛生の向上のために御尽力されていることに対し、深く敬意を表するとともに、廃棄物・リサイクル行政の推進に格段のご協力を賜り熱く御礼申し上げます。

東日本大震災から4年が経過し、今なお指定廃棄物等の課題は残るものの、おかげさまで被災地は復興に向けた歩みを進めています。災害被災地の復旧・復興の大前提である災害廃棄物処理は、廃棄物・リサイクル行政の大きな課題であり、環境省では、東日本大震災の災害廃棄物処理に引き続き全力で取り組むとともに、その教訓を踏まえ、今後の大規模災害の発生に備えるため、廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び災害対策基本法の改正案を国会に提出し成立いたしました。改正法に基づく大規模災害発生時における国、地方公共団体、事業者等の連携協力や、災害廃棄物の広域処理体制の確保等、災害に強い廃棄物処理システムの構築等を進めることとしています。

さて、本大会は、「未来環境への責任～人と浄化槽が出来ること～」をテーマとして3R活動を積極的に推進し、循環型社会づくりを目指すものであり、誠に意義深いものと考えます。

そのような中、浄化槽は、発生源で汚水を処理・排出することから、地域の水環境保全にも貢献するとともに、短期間で比較的安価に設置できるため汚水処理サービスの享受や水質改善効果の発現が早いことが大きな利点であります。平成25年度末における汚水処理人口普及率は88.9%ですが、人口5万人未満の地域では、75.6%と低い水準となっています。今後、汚水処理施設の整備はこのような人口分散地が中心となってまいります。環境保全効果はもとより経済性にも優れ、災害にも強い浄化槽の役割はますます大きくなっていくものと認識しています。また、浄化槽の維持管理については、法定検査、いわゆる第11条検査の受検率が低い状況にあり、浄化槽の本来の性能を発揮する上で、受検率の向上など維持管理の徹底を図っていく必要があります。

浄化槽は地方創生や国土強靱化の観点からも大きく期待されており、人口分散型社会に対応した最適な汚水処理システムとして、一層の推進を図ってまいりますので、関係各位の更なる御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、全国環境連の皆様方におかれましても、引き続きの御支援、御協力をお願いするとともに、今後益々のご発展と会員の皆様方の御健勝を祈念いたしまして、私のお祝いの言葉とさせていただきます。

祝 辞



大分県知事 広瀬 勝 貞

第13回を迎える全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会全国大会が、本日ここに、盛大に開催されますことをお慶び申し上げますとともに、天然自然豊かな大分県で開催されますことを心から歓迎いたします。

貴連合会の会員の皆様には、平素から、浄化槽の清掃や維持管理、一般廃棄物の処理など、着実な事業活動を通じて、生活環境の保全に多大なご貢献をいただいておりますことに深く敬意を表します。

本県は、緑豊かな山野、清らかな河川、県内各地で温泉や湧水に恵まれるなど、豊かな自然環境を有しています。

中でも、美しい水環境は県民共有の財産であり、この恵まれた水環境を保全し、次の世代へ確実に継承しながら、県民の皆さんが郷土に誇りを持つことが何より大切と考えています。

現在、県内各地の河川流域では、県民が親しみを感じる水環境を創出していくため、地元の自治会や各種団体、NPO、漁協など、多くの皆さんが連携して河川保全活動に取り組む県民運動が進められているところです。

良好な水環境を維持・改善していくためには、生活排水対策の推進が不可欠であり、汚水処理人口普及率が全国平均に比べ低迷している本県においては、生活排水処理施設の整備を促進することが急務となっています。

このため、本県では、人口減少等の社会情勢の変化も見据えながら、合併処理浄化槽や下水道等の処理施設の特徴を生かしつつ、それぞれの地域の実情に応じた形で生活排水処理施設の整備が図られるよう、市町村への支援や、県民への普及啓発などに取り組んでいます。

合併処理浄化槽については、災害にも強く、人口分散地域等で効率的に汚水処理できることから、中山間地の多い本県では、その役割は今後ますます大きくなっていくものと考えています。

下水道並みの処理能力がある浄化槽も、適正な維持管理なくしてはその性能が発揮されません。

本県としても、浄化槽清掃や一般廃棄物処理に携わる皆様をはじめ、関係機関と連携して浄化槽の維持管理対策に取り組んでまいりますので、今後とも皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会のますますのご発展と、関係の皆様方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

祝 辞



大分県議会議長 田中利明

第13回全国環境連全国大会が、「未来環境への責任～人と浄化槽が出来ること～」をテーマに、大分県で盛大に開催されますことをお喜び申し上げますとともに、皆様の御来県を心から歓迎いたします。

また、全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会並びに各県の環境整備事業協同組合の皆様方には、平素から公衆衛生の向上や良質な水環境の保全に格別の尽力をいただいていることに対し、深甚なる敬意を表します。

本県は、県土面積の7割を森林が占め、「九州の屋根」と呼ばれるくじゅう連山に代表される阿蘇・くじゅう国立公園や典型的なリアス式海岸の日豊海岸国定公園など、多様で、豊かな自然環境に恵まれています。

例えば、風光明媚なリアス式海岸と豊かな漁場として名高い県南部の佐伯市では、江戸時代から、「佐伯の殿様、浦でもつ」と言われるほど良好な漁場に恵まれ、地域の生活は浦々の漁で支えられています。当時の佐伯藩では、山焼きによる開墾を制限し、沿岸部の豊かな森林資源を守ることで、水産資源の保護に取り組みました。現在の私たちが多くの自然の恵みを楽しんでいるのも、先人達が山と海との深いつながりに気づき、豊かな自然環境を守ってきたことによるものです。

しかしながら、こうして守られてきた豊かな海や河川も、近年の生活雑排水の増加などによる水環境の悪化とは決して無縁ではありません。河川や湖沼、海等の良好な水環境を保全していくためには、生活排水対策の推進が必要不可欠であります。

このため、本県においても、合併処理浄化槽設置や下水道敷設が、地域の実情に応じた形で整備が進められるよう、市町村と取り組んでいるところです。

申すまでもなく、水は蒸発して雲となり、そして雨となって再び地上へ降ります。まさに地球規模で循環していますので、水環境の保全に国をあげて取り組む必要があります。

皆様方におかれましては、環境負荷低減の考え方をより一層進め、自然環境との調和を図り、地域住民に健全で安心した生活基盤を確保するための活動に、引き続き御尽力いただくことを心よりお願い申し上げます。

さて、大分県には、湧出量、源泉数とも日本一を誇る温泉や豊かな自然が育んだ海の幸・山の幸が豊富にごさいます。是非、この機会に御堪能いただければ幸いです。

結びに、全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会のますますの御発展と皆様方の御健勝と御活躍を祈念申し上げまして、お祝いと歓迎の挨拶といたします。

祝 辞



大分市長 佐藤 樹一郎

第13回全国環境連全国大会が、盛大に開催されますことをお喜び申し上げますとともに、全国各地から大分市にお越しいただき、48万市民を代表いたしまして心から歓迎申し上げます。

また、全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会会員の皆様におかれましては、日頃から一般廃棄物の適正処理や浄化槽の維持管理などを通じて、生活環境の保全及び公衆衛生の向上に多大なご貢献をいただいておりますことに、深く敬意を表する次第でございます。

私たちのまち大分市は、緑深い山々、水量豊富な大野川、大分川、豊後水道に面した美しい海岸線など素晴らしい自然や景観に恵まれています。また、古くから瀬戸内海の海路に通じる要衝として人々が盛んに交流し、優れた歴史的文化遺産と固有な風土が形づくられるとともに、新産業都市の指定を受けて以来、国内でも有数の工業都市として発展してまいりました。

一方で、私たちは資源やエネルギーを大量に消費する社会の中で快適で便利な生活を享受してきましたが、事業活動や日常生活における活動の拡大に伴って増大する環境負荷への対応が強く求められています。このようなことから、健全で恵み豊かな環境を次の世代に継承していくことが、私たちの重要な責務であることを認識し、一人ひとりがこれまでの利便性と物質的な豊かさを優先させてきたことを見直し、人と自然が共生する環境を優先する意識の転換を図っていかねばなりません。

こうした決意のもと、「大分市環境基本条例」に基づき、人々が良好な環境の中で心の豊かさを育み、質の高い生活を営むことができる社会を実現することを目指しており、また、「大分市一般廃棄物処理基本計画」において「生活排水処理基本計画」を定め、環境に配慮した適正な処理体制の整備と、衛生的で安全・安心な生活環境が保たれるまちづくりに努めております。

一例をあげますと、生活雑排水やし尿等による水質汚濁を防止するため、市街化区域を中心に公共下水道の整備を推進するとともに、農村集落においては農業集落排水事業を実施しております。また、公共下水道と農業集落排水事業区域以外におきましては、浄化槽を生活排水対策の有効な手段として捉え、その設置を促進するために浄化槽設置費補助制度も設けているところでございます。

浄化槽は東日本大震災においても被害が少なく、下水道と同等の処理能力を備えた災害に強い施設として再認識されたところですが、その機能をきちんと発揮するためには浄化槽管理者の保守点検等の適正な維持管理が必要となることから、浄化槽関連の各種団体の皆様にもご協力をいただきながら、引き続き、浄化槽の設置促進と適正な維持管理に取り組んでまいります。

さて、大分市といえば「お猿の高崎山」として全国的にも有名ですが、郷土の戦国大名・大友宗麟公の功績とわが国でいち早く南蛮文化が開いた豊後府内を誇りとし、「南蛮文化発祥都市宣言」を行うなかで、魅力に満ちたふるさとを創造しています。この4月にはJRおおいたシティや大分県立美術館がオープンするなど、大分駅周辺は大きく変容いたしておりますので、ぜひ、新しい中心市街地を散策していただくとともに、「関あじ・関さば」「大分ふぐ」「とり天」など、大分ならではの食もご体験いただきたいと存じます。

結びに、本大会のご成功と貴連合会のますますのご発展、並びにお集まりの皆様のご健勝、ご活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

全国環境連第13回全国大会を祝して



公益財団法人日本環境整備教育センター
理事長 廣瀬 省

全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会第13回全国大会が、「未来環境への責任～人と浄化槽ができること～」をテーマに、このように盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げますとともに、貴連合会会員の皆様が、全国の一般廃棄物の適正処理と循環型社会の実現を目指し、わが国の良質な水環境の確保と公衆衛生の向上に大きく貢献しておられますことに対し、深く敬意を表する次第です。

また、私ども日本環境整備教育センターの事業推進に対し、常日頃より格別なるご協力を賜っておりますことに厚く御礼申し上げます。

さて、平成25年度末における我が国の汚水処理人口普及率は88.9%に達し、汚水処理施設の整備はまさに仕上げの段階に入っています。昨年1月、浄化槽、下水道、農業集落排水施設と連携し、地域特性に応じた効率的な汚水処理を促進する目的で、汚水処理を管轄する国交省、農林水産省、環境省の3省から「持続的な汚水処理システム構築に向けた都道府県構想策定マニュアル」が公表されました。マニュアルでは汚水処理未普及の解消に向け、各汚水処理施設間の経済比較を基本としつつ、地域の実情を踏まえ、概ね10年で各種汚水処理施設の整備が完了するという目標が掲げられ、これからの汚水処理施設整備が大きく変わろうとしています。その背景には高度経済成長期に整備した施設が老朽化し、改築・更新等を迎える時期にきているインフラクライシスの問題、人口減少、高齢化が加速する人口動態、世帯計画の変化、さらには、阪神淡路大震災、新潟中越沖地震、東日本大震災などの巨大地震における集合処理型汚水処理施設の被害状況は甚大かつ復帰までに長い時間と膨大な財政負担を要することが報告されています。

このようなことから人口オーナス社会はあらゆる分野に影響し、インフラの防災・減災対策や高コスト是正の観点から厳しい財政負担が強いられる地方自治体においては、住民への行政サービスの低下、住民の流出、税収の減少など負のスパイラルを回避するために、汚水処理構想を見直し、1ha当たり40人という人口密度を下回るような集合処理方式による整備から個別処理方式である浄化槽による整備への転換が早急に実効ある形として見直されることが重要と考えます。このようなことから今後の将来を見ずえる上において貴連合会の活動は必須であり、その果たす役割は大きくなるものと期待されます。

当教育センターは、今日まで浄化槽に係る様々な課題を十分認識し、微力ながら浄化槽関係唯一の教育機関として、浄化槽関係技術者の養成、技術向上に努めて参りましたが、今後とも浄化槽事業発展のため、一層の努力を致す所存でございますので、皆様方におかれましても引き続きご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、貴連合会と会員の皆様の今後益々のご発展、ご活躍を心からご期待申し上げますとともに、ご参集の皆様方のご健康とご多幸を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

全国環境連第13回全国大会を祝して



一般社団法人 全国浄化槽団体連合会
会長 上山 健治郎

貴連合会「第13回全国大会」の開催を、心からお祝い申し上げます。

12年前、貴連合会は、「相互扶助の精神と互いの経営資源の補完」「知性と良心」「自由闊達な建設的議論」「相互の人格と個性の尊重」「民主的運営」等を基本理念として、新たな船出をされました。以来、我が国の健全で恵み豊かな水環境の確保と、公衆衛生の向上に大きく貢献してこられました。今年も全国の一般廃棄物処理業者が一堂に会され、「未来環境への責任～人と浄化槽が出来ること～」をテーマに、国・地方・関係業界が協働して、国民が安全で安心な水環境の恵沢を享受できる社会を実現するための強い決意を表明されております。

21世紀は「水の世紀」——。全世界で水問題が熱く語られる中、「水環境の確保は、日本の重要な国家戦略」であり、「健全な水循環の維持向上を図り、循環型社会を構築するためには、浄化槽の果たす役割が極めて大きい」ことを考えますと、今大会のテーマもまた誠に時宜を得たものと、深く敬意を表するものであります。

今や全国の汚水処理人口普及率は89%に達しましたが、半面、台所やトイレの生活排水の処理を必要としている人々が、まだまだ1,300万人いらっしゃいます。厳しい財政状況の中で、普及率を100%にするには、下水道との役割分担により、「環境にも財政にも優しく、地震にも強い浄化槽」の整備比率を、飛躍的に高めていかなければなりません。

全浄連は、こうした「浄化槽整備推進の柱」として、

- *「浄化槽整備区域の拡大」
- *「単独から合併処理浄化槽への速やかな転換のため、法改正と公費負担」
- *「浄化槽維持管理費に対する下水道並みの公費助成」
- *「魅力ある地方を創生するためにも、生活排水処理施設は浄化槽で整備」

などを、国・議員連盟に要望しておりますが、その実現に向け、粘り強く活動してまいります決意であります。

一方、これら浄化槽の普及整備への課題を解決するためには、「自治体・業界・使用者」を浄化槽台帳情報基盤でつなぎ、これをベースに各種の新しい環境サービスを提供する浄化槽管理システムが欠かせません。現在、全浄連「スマート浄化槽」が環境省の支援事業に採用され、3県市で試行中であり、全浄連では、多額の初期費用が不要なこのシステムを、全国に展開してまいりたいと存じます。

末永い日本の繁栄を築き、美しい水環境を守ることは、私どもの永遠の責務です。全浄連は、その実現に皆様と共に手を携えて努力してまいりたいと存じます。

最後になりましたが、貴全国環境連と会員の皆様のご発展とご活躍を祈念し、お祝いの言葉と致します。

大会の目的

我々一般廃棄物処理業者は、市町村の自治事務の代行者として、廃棄物処理事業が開始されたときから今日まで、適正な廃棄物処理を通じて、わが国の良質な水環境の確保及び公衆衛生の向上に寄与してきたところである。しかし、その傍ら下水道の整備が進む中、業界の取り巻く厳しい経営環境は、年々その度合いを強めている。そのため「合特法」の趣旨を踏まえた転換(支援)業務(補償)の獲得が、今や緊急の課題となっていることはいうまでもない。

我々がこの難局を乗り切るためには、積極的に英知を結集し自らの力で業界の経営基盤の安定を図っていくことが必要である。

我々は、今後も絶え間ないイノベーション(技術革新)で、業界の未来は開かれるという信念のもとに、創造性を備えた先進的なリサイクル等の技術開発に努めていくことが強く求められている。その上で、企業の社会的責任(CSR)の視点から業界全体での思い切った意識改革に取り組み、新たな価値観を追求することが必要である。

また、環境の世紀といわれる21世紀において、水は国民の貴重な共有財産であり、水循環への負荷を未然に防止し、その低減に努め、健全な水循環の維持向上を図り、循環型社会を確立することが大切である。

安全・安心な水循環を流域単位で達成し、地域社会の良好な生活環境を確保し、それを将来世代に継承していくことは一般廃棄物処理に携わる我々の責務であり、業界一丸となって取り組んでいかなければならない。

本大会は「未来環境への責任～人と浄化槽が出来ること～」をテーマに全国の一般廃棄物処理業者が一堂に会し、3R(リデュース、リユース、リサイクル)を積極的に推進し、国・地方及び関係業界が協働して、国民が安全で安心な水環境の恵沢を享受できる社会を実現するための我々の強い決意をここに表明するものである。

講演

[受付] 12時30分～ [時間] 13時30分～15時40分 [場所] 2階・二豊の間

講演I 13:30～14:30



演題

「廃棄物・リサイクル対策にかかる 最近の動向 ～災害時における廃棄物対策等～」

講師

環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部

廃棄物対策課長 和田篤也氏

【講師プロフィール】

地球環境局地球温暖化対策課長を経て、平成26年7月に廃棄物対策課長に就任。

講演II 14:40～15:40



演題

「生活排水の現状と今後について」

講師

公益財団法人 日本環境整備教育センター

理事 国安克彦氏

【講師プロフィール】

東京理科大学大学院工学研究科卒、東北大学大学院工学研究科博士課程修了、
博士(工学)、現在、公益財団法人日本環境整備教育センター理事

- 主な研究テーマ
- ・小規模合併処理浄化槽の実用化に関する研究
 - ・家庭用合併処理浄化槽の嫌気性ろ床方式による高度化処理に関する研究
 - ・嫌気性ろ床方式を導入した中規模家庭排水処理に関する研究
 - ・小型合併処理浄化槽の機能調査
 - ・地域特性に応じた排水処理計画の策定

大会式典

[時 間] 16時00分～17時00分 [場 所] 2階・二豊の間

1. 物故者に対する黙祷
2. 開会の辞
3. 大会式辞
4. 優良役員・従業員表彰
5. 受賞者代表謝辞
6. 政府に対する要望決議
7. 大会スローガン発表
8. 大会宣言
9. 来賓祝辞
10. 祝電披露
11. 閉会の辞

第13回全国大会 政府に対する要望決議

私達、一般廃棄物処理業者は今日まで、市町村の自治事務の代行者として長年ただひたすらに、廃棄物の適正処理に取り組み、我が国の生活環境の保全及び公衆衛生の向上に重要な役割を果たしてきました。

しかしながら近年、下水道の整備普及による業界の業務は、目に見えて先細りの一途をたどり、経営圧迫による危機感を抱いております。そのため私達は「合特法」に基づいて転換業務(補償)獲得を市町村に要求していくものであります。

そのうえで、経営の安定を維持し、廃棄物の適正処理を全うし循環型の社会づくりの実現を図って参りたいと存じます。つきましては、何卒、下記の事項について特段の措置を講じられますよう切に要望するものであります。

記

- ① 下水道の整備により影響を受ける一般廃棄物処理業者等に対して、安定かつ継続する業務を保障する観点から「合特法」に基づく合理化事業計画の策定を行い、それを実行に移すことにより、転換業務(補償)の確保を図られたいこと。
- ② PFI事業による浄化槽市町村整備推進事業の維持管理については「合特法」の趣旨に沿い市町村において適切な対策が講じられるよう指導されたいこと。
- ③ 浄化槽の維持管理については、浄化槽法の目的が十分に達成されるよう環境省関係浄化槽法施行規則等に定める保守点検、清掃および法定検査に関する現行規定の遵守を周知徹底し、適正な維持管理による浄化槽の正常な機能が常時確保されるよう指導されたいこと。併せて、法定検査の受検率の著しい向上に効果的である「指定採水員制度」も堅持し、全国的に法定検査の実施が促進されるよう関係者に対する指導の徹底を図られたいこと。
- ④ 災害に強く技術革新の可能性のある浄化槽の分野について、最適な維持管理システムの構築や浄化槽汚泥の活用などの課題に着目し、イノベーション(技術革新)創出を導き出す研究開発を重点的に推進するための措置を講じられたいこと。
- ⑤ 汚水処理施設(下水道、浄化槽、農漁集排、汚泥再生処理センター)の整備については、地方公共団体の財政が逼迫していることから、人口減少を考慮した経済的、効率的な整備が推進されるよう指導されたいこと。
- ⑥ デスポーザーの普及に伴い、水質保全の観点から、その排水処理システムの確立及び維持管理については速やかに法体系の整備を図られたいこと。
- ⑦ 一般廃棄物処理計画に基づき一般廃棄物の適正な処理が確保されている場合には、新たな業の許可はいたずらに過当競争等を招き、ひいては適正な処理が困難となるおそれが高いため、既存の適正規模の処理施設や体制を維持するよう地方自治体に対して指導の徹底を図られたいこと。

大会スローガン

1. 下水道整備の進捗に伴う転換業務(補償)獲得
1. 不法・不当な新規許可の絶対反対と委託・許可制度の適正な運用
1. 生活排水対策に優れ災害に強い浄化槽の適正な維持管理の確立・徹底
1. イノベーション(技術革新)による事業の安定的発展
1. 循環型社会づくりを実現するため3R活動の一層の推進
1. 組織の充実強化と次世代を担う人材の育成
1. 労働災害ゼロの徹底と福利厚生の実

大会宣言

私達、一般廃棄物処理業者は市町村の自治事務の代行者として、廃棄物処理事業が開始されたときから今日まで、適正な廃棄物処理を通じてわが国の良質な水環境の確保及び公衆衛生の向上に寄与してきたところである。

しかし、その傍ら下水道の整備が進む中、業界を取り巻く厳しい経営環境は年々その度合いを強めている。そのため「合特法」の趣旨を踏まえた転換(支援)業務(補償)の獲得が今や緊急の課題となっていることはいうまでもない。この難局を乗り切るためには、積極的に英知を結集し、自らの力で業界の経営基盤の安定を図っていくことが必要である。

私達は、今後も絶え間ないイノベーション(技術革新)で業界の未来は開かれるという信念のもとに、創造性を備えた先進的なリサイクル等の技術開発に努めていくことが強く求められている。その上で、企業の社会的責任(CSR)の視点から業界全体での思い切った意識改革に取り組み、新たな価値観を追求することが必要である。

また、環境の世紀といわれる21世紀において、水は国民の貴重な共有財産であり、水循環への負荷を未然に防止し、その低減に努め、健全な水循環の維持向上を図り、循環型社会を確立することが大切である。

安全・安心な水循環を流域単位で達成し、地域社会の良好な生活環境を確保し、それを将来世代に継承していくことは一般廃棄物処理に携わる我々の責務であり、業界一丸となって取り組んでいかなければならない。

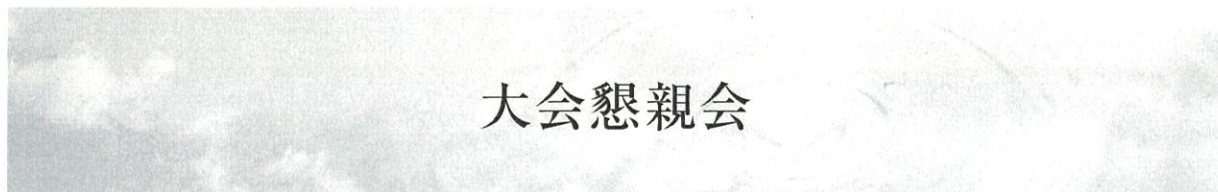
本大会は「未来環境への責任～人と浄化槽が出来ること～」をテーマに全国の一般廃棄物処理業者が一堂に会し、3R(リデュース、リユース、リサイクル)を積極的に推進し、国・地方及び関係業界が協働して、国民が安全で安心な水環境の恵沢を享受できる社会の実現を目指すものである。

さらに私達は、組織の拡充を図りながら強固な団結と協調のもと全国環境連の基本理念を実現することを誓うものである。

以上宣言する。

平成27年10月30日

第13回 全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会
全国大会



大会懇親会

[時 間] 17時30分～19時30分 [場 所] 2階・二豊の間

1. 開会の辞
2. 主催者挨拶
3. 来賓祝辞
4. 来賓紹介
5. 乾杯
6. 次回開催担当県挨拶
7. 閉会の辞

ジャズ演奏



白谷典子 (Noriko Shiratani/Vocal)

福岡県出身。高校時代からドラマーとして音楽活動開始。YAMAHAのコンテスト等出場した全てのコンテストでベストドラマー賞受賞。その後ジャズボーカリストのマリーナ・シヨウに出会ったことをきっかけにボーカルに転身。以後着実にVocalistとしてのキャリアを積み現在に至る。九州各地にてライブ活動の他、様々な音楽活動を展開中。

DeeDee's

白谷典子(vocal)と坂本格一(Piano/Organ)の2人ユニット。ジャズ、ソウル、ブルースをはじめヨーロピアン、アラビックまで取り入れた独自のサウンドで大分を拠点に九州各地のジャズクラブ/イベント/コンサート等にて演奏活動を展開中。県内はもとより県外のツアーミュージシャンとの共演多数。2012.3.14ファーストアルバム 'A Night In Tunisia' をリリース。

坂本格一 (Tadashi Sakamoto/Organ,Piano)

熊本県出身。幼少よりオルガン、ピアノを学び、20歳よりブルース、ジャズバンドでピアノ演奏を始める。現在大分を拠点とし九州各地のライブハウスやイベントでpiano奏者、organ奏者としての演奏活動の他、作曲/アレンジも手がける等幅広く活動中。



木村英夫 (Bass)

大分県出身。ジャコ・パストリアスに触発され、東京で27年間スタジオ、TV、ライブで様々なジャンルのミュージシャンと共演。地元に戻り、ラテン、フォルクローレユニットでのアルバム制作などに関わる。ソロアーティストとしてジャズに軸足をのいた独自の音作りをストイックに追求してきた。潜伏期間10年、独自の感性を磨き、プレイヤーとして音楽活動の舞台を広げ始めている。



志賀翔太 (Drums)

1987年生まれ。竹田市出身。高校の吹奏楽でドラムを始め高校卒業後、地元のビッグバンドに誘われジャズを演奏するようになる。現在、大分市を中心にライブ活動を行っている。

全国大会のあゆみ

回	開催年月日	担当地区	開催地	テーマ
1	平成15年 9月26日	九州地区	赤坂プリンスホテル	循環型社会へ新たなスクラム
2	平成16年 9月 9日	九州地区	ホテルニューオータニ ザメイン	循環型社会への挑戦
3	平成17年 9月14日	九州地区	ホテルニューオータニ ザメイン	循環型社会の創造
4	平成18年 9月14日	中国地区	ホテルニューオータニ ザメイン	循環型社会のイノベーション(技術革新)
5	平成19年10月19日	中国地区	岡山プラザホテル	浄化槽が拓く循環型社会づくり
6	平成20年 9月25日	中国地区	ホテルニューオータニザメイン	水資源の創造、浄化槽
7	平成21年10月16日	九州地区	鹿児島サンロイヤルホテル	ふるさとの健やかな水循環 浄化槽
8	平成22年10月21日	関東中部地区	ホテルメトロポリタン長野	水から水へ 人から人へ 未来へつなぐ浄化槽
9	平成23年10月28日	中国地区	ホテルニュータナカ	まちにひとに健全な水循環を!
10	平成24年10月10日	九州地区	宮崎観光ホテル	守ろう水資源 つなげよう未来へ 災害に強い浄化槽
11	平成25年10月18日	中国地区	ホテルニューオータニ ザメイン	水循環による自然共生社会の実現
12	平成26年10月10日	関東中部地区	ホテル東日本宇都宮	世界に誇る浄化槽 未来へ残そう美しい自然
13	平成27年10月30日	九州地区	レンブラントホテル大分	未来環境への責任 ~人と浄化槽が出来ること~



全国環境連



平成27年度 第13回 全国環境連全国大会

「未来環境への責任 ～人と浄化槽が出来ること～」



中津市 / 一目八景



宇佐市 / 宇佐神宮



豊後高田市 / 熊野磨崖仏



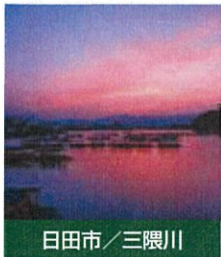
姫島村 / 姫島盆踊り



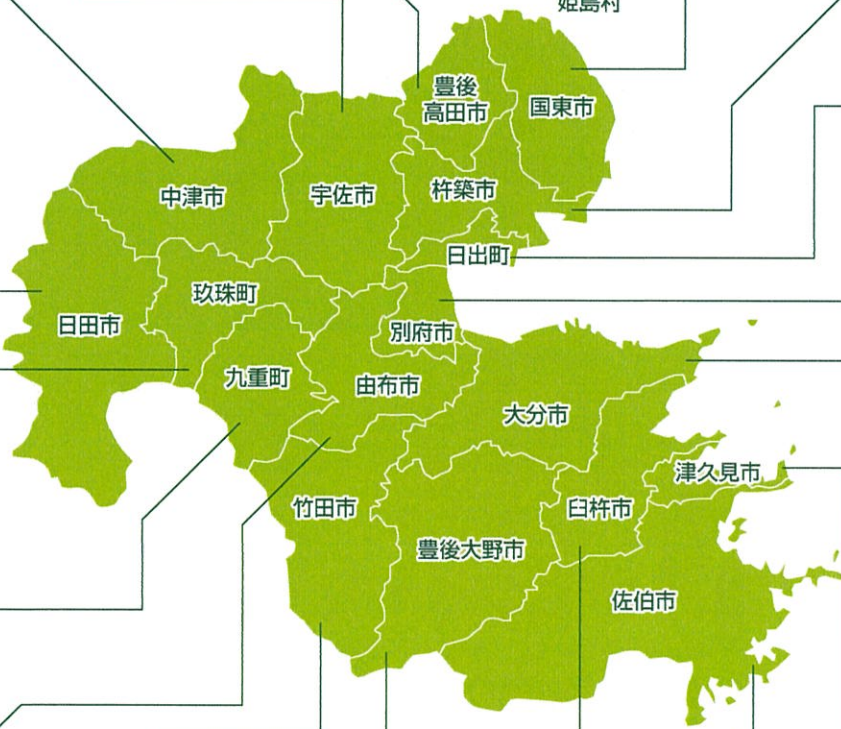
国東市 / 両子寺



宍粟市 / 宍粟城



日田市 / 三隈川



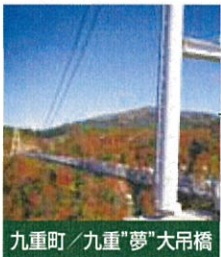
日出町 / 城下かれい祭り



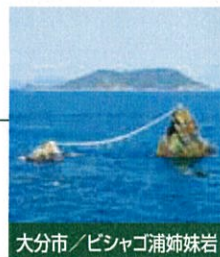
玖珠町 / 童話まつり



別府市 / 鉄輪



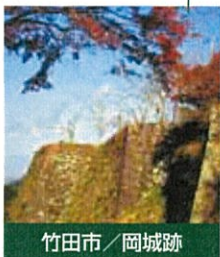
九重町 / 九重"夢"大吊橋



大分市 / ビシャゴ浦姉妹岩



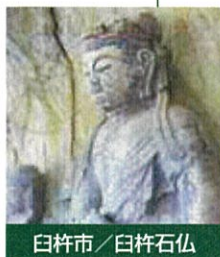
由布市 / 金鱗湖



竹田市 / 岡城跡



豊後大野市 / 稻積水中鍾乳洞



臼杵市 / 臼杵石仏



佐伯市 / 銚子八景



津久見市 / つくみイルカ島

大分県環境整備事業協同組合

〒870-0921 大分県大分市萩原1-4-4 八千代ビル2F

TEL 097-558-6943 FAX 097-558-8943

